

西区支部活動

西区支部 現地研修（フィールドワーク） 参加者 13 名

令和 2 年 1 月 24 日（金） 13：30～16：45 生野コリアンタウンの「在日コリアンの歴史と現状」について、多民族共生人権教育センター 事務局長の文 公輝（ムン ゴンフィ）さんのご説明・案内で現地フィールドワークを実施いたしました。

【活動の概要】

最近、日本の在日外国人数は 280 万人を超え、増加の一途をたどっているという現状を踏まえて、共生社会を目指す為に、その原点とも言える「在日コリアン」の歴史と現状について、理解を深める。

【研修内容】

まず、JR 鶴橋駅の中央改札口に集合、講師の文事務局長と待ち合せて、すぐ近くの千日前通りで 2013 年 2 月に「在特会」が初めて大規模なヘイトスピーチを行なった現場を見学して説明を聞いた。次に焼肉屋が密集したエリアに移動して、植民地時代に朝鮮から渡ってきた人々が広めていった焼き肉の歴史について説明を受けた。その裏には戦後の食糧難があったという事実を知った時に、苦しい中で皆が必死に生活していたのだと実感した。

引き続き、キムチ等の食料品や民族衣装であるチョゴリの店も見学したが、祖先を祀る儀式・祭祀や子供の成長を祝う 100 日記念日ペギルチャンチ（日本の七五三）には無くてはならぬモノとして、私たちとは異なる位置づけであることを改めて認識できた。講師が古い写真を大きく引き伸ばして持参していて、現在との違いを説明してくれたので、大変わかりやすかった。

多民族共生人権教育センターに到着後は、配布された冊子と講師のパワーポイント資料の説明による座学を 1 時間強、受講した。

在日コリアンの歴史を植民地時代からの出来事と共に、わかりやすく説明してもらった。その中でも、ヘイトスピーチが住民に与えた影響の大きさに驚くと同時に、言葉がどれだけ人を傷つけるものかということを感じた。

座学後、再度フィールドワークに出発、生野コリアンタウン到着前に、昔は「猪飼野」



と呼ばれた地区だったこと、何故この地区に在日コリアンが多く居住するようになったかということ、仁徳天皇を祀る「御幸森神社」の境内には「難波津の歌」の碑が建立されていて、共生社会を目指していること等を学んだ。生野コリアンタウンは大勢の人で活気にあふれていたが、その前身である「猪飼野朝鮮市場」の説明は、昔の写真もあり、非常に興味深かった。細い路地の左右に連なる長屋に住む在日コリアンが軒先や屋台で朝鮮半島の食品を始めとする生活用品を販売すると、近畿地方一円から1日に1万人～2万人の買い物客が訪れて、ごった返したという話には感慨無量であった。物流システムも整っていない時代に、ソウルフードや民族としての必需品を求めて、1日かけて汽車に乗り、この地を目指した人々の姿に思いを馳せることができた。

【感 想】

研修会終了後、参加者にアンケートを行ない、回答の協力をいただいた。今回の現地研修会に対して、ほとんどの方が大変良かったとの回答であり、感想としては「自分の知らなかった鶴橋を教えてもらった」、「誤った情報を持っていたことがわかった」、「在日コリアンのことを何も知らなかった自分に気づいた」等、気づきの多かった有意義な現地研修会であったと思われる。

